

## ストロビルリン系殺菌剤耐性キュウリべと病菌の発生と対策

ストロビルリン系殺菌剤（商品名：アミスター20フロアブル，ストロビーフロアブル）の効かない（耐性の）キュウリべと病菌の発生が本県で確認された。このため，病害虫防除基準におけるきゅうりのべと病対象の本欄から，本剤を削除した。万が一，この耐性菌が発生しても，ストロビルリン系殺菌剤以外（他系統）のべと病対象薬剤で防除できる。



図1 キュウリべと病の病徴

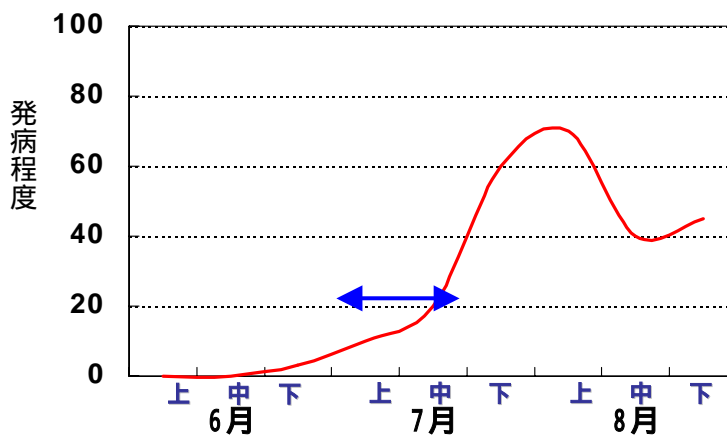


図2 キュウリべと病の発生パターンと耐性菌の発生しやすい散布時期 ( ←→ )

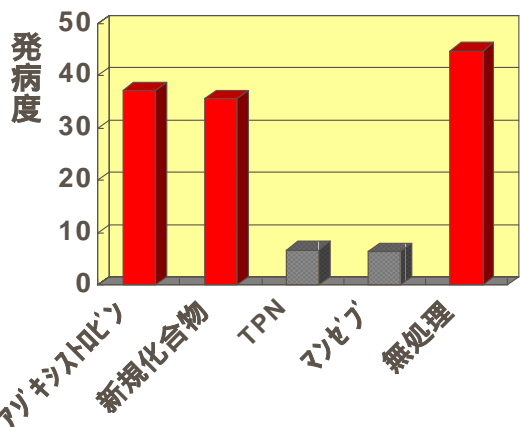


図3 防除効果の劣る試験事例

→各供試薬剤を5葉期の苗に散布後，試験圃場から分離した耐性菌を接種した。その結果，アゾキシストロビン（アミスター20フロアブル），クレソキシムメチル（ストロビーフロアブル）を散布した区では1株に形成された病斑数が無防除区（無処理）と同等であった。

これに対して，TPN（ダコニール1000），オキサジキシル・銅（サンドファンC水和剤）を散布した区では病斑形成が阻害され，高い防除効果を認めた。

以上のことから，耐性菌はTPN，マンゼブ，オキサジキシル・銅などの水和剤で防除できる。

← アゾキシストロビン（アミスター20フロアブル），新規化合物が「ストロビルリン系殺菌剤」に当たる。これらを散布した試験区におけるべと病の発病は，防除しなかった「無処理」と同程度の発病となり，防除効果が著しく劣った。一方，TPN（ダコニール1000），マンゼブ（ペンコゼブ水和剤）を散布した場合の防除効果は高かった。

このことから，この圃場での発病葉からべと病菌を分離し，ストロビルリン系殺菌剤に対する感受性を検定したところ（データ省略），耐性菌であることが判明した。

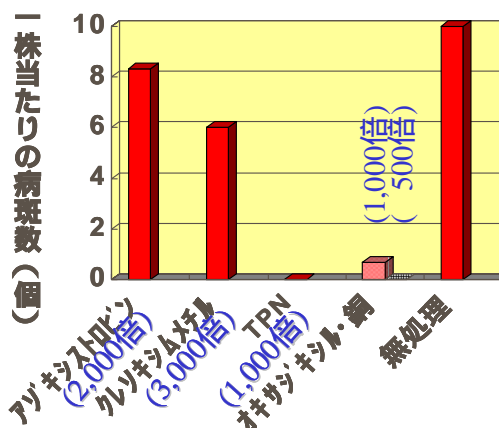


図4 耐性べと病菌の防除試験